

第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣

派遣報告書

第8回 アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム

2015年10月28日～11月2日

第25回アジア太平洋地域スカウト会議

2015年11月3日～11月8日

**8th Asia Pacific Regional Scout Youth Forum
& 25th Asia Pacific Regional Scout Conference**



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目次

1. 派遣概要および派遣団の紹介.....	1
1.1 派遣概要.....	1
1.2 日程.....	1
1.3 クルー紹介.....	2
2. 第8回アジア太平洋地域（APR）ユースフォーラム報告.....	3
2.1 第8回 APR ユースフォーラム概要.....	3
2.2 派遣団の目的・目標・方針.....	4
2.3 APR スカウトフォーラムとは.....	5
2.4 日程表.....	6
2.5 フォーラムのトピック.....	10
2.6 提言文.....	13
2.7 YAMG について.....	20
2.8 KAICIID ワークショップ.....	22
3. 事前準備に関して.....	25
3.1 事前準備スケジュール.....	25
3.2 事前準備の内容.....	26
3.3 グッズ制作について.....	27
3.4 事前アンケート集計結果.....	30
4. 感想.....	32
青柳 里奈.....	32
泊 昌史.....	34
堺 亮裕.....	36
武田 英香里.....	37
平芝 亜喜.....	39
5. 総括.....	41
4.1 日本におけるスカウティングの現状.....	41
4.2 日本派遣団の取り組みとその成果.....	42
4.3 今後に向けて.....	43



1. 派遣概要および派遣団の紹介

1.1 派遣概要

事業名称： 第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣

派遣日程： 第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム

平成27年10月28日（水）～11月2日（月） 6日間

第25回アジア太平洋地域スカウト会議

平成27年11月3日（水）～11月9日（月） 7日間

派遣場所： 韓国 順天（スンチョン）：APRユースフォーラム

光州（ガンジュ）：APRスカウト会議

派遣員数： 5人（代表2人、オブザーバー3人）

派遣目的： 日本スカウトの青年代表として、このユースフォーラムで日常のスカウト活動を通じて体得した知識・技能・精神を一層高め、参加外国スカウトとの討議等を通じて国際理解と相互交流を深める。

1.2 日程

APRユースフォーラムとAPRスカウト会議の詳細な日程は後述する。

10月28日（水）			
7:00	成田空港到着		
9:00	成田空港出発		
11:40	仁川空港到着		
19:00	仁川空港出発		
10月29日（木）			
1:00	順天APRスカウトセンター到着		
	APRユースフォーラム		
11月3日（火）			
フォーラムのみ参加者		スカウト会議参加者	
1:30	順天APRスカウトセンター出発	7:00	順天APRスカウトセンター出発
8:00	仁川空港到着	9:30	光州広域市 金大中コンベンションセンター
10:00	仁川空港出発		APRスカウト会議
12:10	成田空港到着		
		11月9日（月）	
		3:50	金大中コンベンションセンター
		7:30	仁川空港到着
		10:00	仁川空港出発
		12:10	成田空港到着

1.3 クルー紹介



左側より

氏名 青柳 里奈
所属 千葉県連盟千葉地区千葉第8団
役務 APRユースフォーラム代表・記録・会計
愛称 リナ

氏名 泊 昌史
所属 東京連盟山手地区目黒第3団
役務 APRユースフォーラム代表・APRスカウト会議青年代表・レクリエーション
愛称 マーシー

氏名 堺 亮裕
所属 大阪連盟かわち地区富田林第2団
役務 APRユースフォーラムオブザーバー・クルーリーダー・渉外
愛称 リョウ

氏名 武田 英香里
所属 千葉県連盟東葛地区柏第1団
役務 APRユースフォーラムオブザーバー・記録・広報
愛称 ヒカリ

氏名 平芝 亜喜
所属 大阪連盟きたおおさか地区枚方第9団
役務 APRユースフォーラムオブザーバー・グッズ
愛称 アキ

2. 第8回アジア太平洋地域（APR）ユースフォーラム報告

2.1 第8回 APR ユースフォーラム概要

第8回アジア太平洋地域（APR）ユースフォーラムは平成27年10月28日（水）～11月2日（月）の5日間、韓国 順天（スンチョン）市にあるAPRスカウトセンターで開催された。
また、希望者はユースフォーラム後、平成27年11月3日（火）～11月9日（月）に同国光州（ガンジュ）市で開催された第25回アジア太平洋地域スカウト会議へ日本派遣団の一員として参加した。

主 催 世界スカウト機構アジア太平洋地域
共 催 韓国スカウト連盟
日 時 平成27年10月28日（水）～11月2日（月）
会 場 韓国 全羅南道 順천시 スンチョンアジア太平洋地域スカウトセンター
Suncheon Asia-Pacific Scout Center (SAPSC)
テーマ Growth toward Unity（調和への発展）

参加者 26 連盟、88 人

アジア太平洋地域加盟国

オーストラリア、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、台湾、フィジー、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ

アジア太平洋地域準加盟国

マカオ、ミャンマー*、東ティモール

アラブ地域代表

アルジェリア*

招待国

ポーランド*、

*これらの国々はオブザーバーとしてのみの参加。



2.2 派遣団の目的・目標・方針

私たちは日本代表派遣団として目的・目標・方針を以下のように定めた。

目 的

日本のスカウティングの課題を把握した上で各国の代表と議論し、採択された内容を日本のスカウティングに適した形で反映する方法を提案する。

目 標

- ① R C J フォーラムなどを活用し、日本のスカウティングのニーズと課題を把握する。
- ② 各国の代表と効果的にコミュニケーションを取るために、フォーラムにおける公用語での議論・発表する技術を向上させる。
- ③ 日本連盟を通じた報告書、全国ローバースカウト会議経由の情報発信、およびインターネット上での動画発信を行う。

方 針

私たちは採択された内容を日本のスカウティングに適した形で反映する方法を提案し、提案した内容の実践及び評価を行う。以上のプロセスを経て、得られた経験と人脈を次回以降の国際フォーラム派遣員に引き継ぎ支援し続けることを方針とする。



2.3 APR スカウトフォーラムとは

1907年にイギリスで始まり、いまでは世界中に広まっているボーイスカウト運動は、世界スカウト機構（World Organization of the Scout Movement：WOSM）を中心に展開されており、2015年11月時点で161の国と地域が正加盟している。これら161の国と地域は、6つの地域に分かれており、共通のちかいのもと、各国に適した形でスカウティングが行われている。

アジア太平洋地域	24か国	約3060万人
ヨーロッパ地域	40か国	約155万人
アラブ地域	18か国	約31万人
ユーラシア地域	9か国	約2万人
アフリカ地域	38か国	約155万人
インターアメリカ地域	32か国	約396万人

各地域の加盟国数と加盟員数

これらすべての地域の代表スカウトが集

まる世界スカウトユースフォーラムが4年に1回開催されるが、アジア太平洋地域では、APRユースフォーラムを3年に1回、加盟国内で開催国を変えながら開催してきた。

日本でも2007年に第5回APRユースフォーラムが開催されたが、その中で日本連盟から平塚学さんが、アジア太平洋地域青年代表であるヤングアダルトメンバーズグループ（YAMG）の議長として当選した。それ以降APRユースフォーラムは3回開催されているが、日本連盟からYAMGとなるスカウトは選出されていない。

APRユースフォーラムはYAMGとAPRスカウト小委員会であるプログラム小委員会によって計画され、YAMGによって進行される。テーマだけでは漠然としていて、多様性の広いアジア太平洋地域ではディスカッションの焦点を絞りにくいため、YAMGとプログラム小委員会から事前に配布される資料の中には3つほどの小テーマが含まれている。参加者は事前に発行される資料をもとに、自国でディスカッションを行い、APRユースフォーラムに臨む。

APRユースフォーラムでは、導入としてアジア太平洋地域でのスカウティングの取り組みや、YAMGの報告を聞いた後、各小テーマに基づいたディスカッションを英語で行う。ディスカッションは10人前後のグループに分かれて行われ、最後に各グループで話し合った内容を全体で発表するという形式で進行するものの、フォーラムの成果ともいえる提言文は各国派遣団ごとに提案する。そのため、ディスカッションの結果を把握し、問題を解決するため手段である提言文へとつなげることが、全ての参加者に求められている。

同時にAPRユースフォーラムはYAMGの選出の場となっている。青年スカウトの代表ともいえるYAMGは、アジア太平洋地域の様々なイベントやジャンボリー、ワークショップなどに参加し、アジア太平洋地域スカウト小委員会に参画することができるため、多くの候補者が各国から立候補している。各国派遣団はフォーラム期間中にYAMG候補者の様子を見て、最終日に投票を行う。このように、APRユースフォーラムは熱意と多様性にあふれる各国代表スカウトとディスカッションを重ね、文化交流を行うことができる、絶好の機会となっている。

2.4 日程表

10 月 29 日

07:00-08:00	朝食
08:00-08:20	連絡事項
08:20-10:00	・開会の辞（第 8 回 A P R ユースフォーラム議長より） ・ホスト国委員会、プランニング委員会、YAMG、スタッフの紹介 ・議題の採択 ・進行ルールの採択 ・ユースフォーラムの趣旨説明、目的、進行方法の説明 ・A P R プログラム小委員会からの報告 ・W O S M の概要 ・地域の課題に関する共有
10:00-10:30	休憩 
10:30-12:00	開会式・写真撮影
12:30-14:00	昼食
14:00-16:10	導入セッション ・基調演説、質疑応答 ・運営委員会、投票集計係、ファシリテーターの役割説明 ・投票集計係の任命 ・ユースフォーラム参加者から議長の任命 ・各グループから副議長を選出 ① オーストラリア・ブルネイ・フィジー・インドネシア・キリバス・マレーシア・ニュージーランド・パプアニューギニア・シンガポール・ポリネシア ② バングラデシュ・ブータン・インド・モルジブ・ネパール・パキスタン・スリランカ ③ カンボジア・台湾・香港・日本・マカオ・モンゴル・フィリピン・タイ ④ ホスト国（韓国） ・書記の任命（各国代表者の中から選出）
16:10-16:40	休憩
16:40-17:45	YAMG について ・概要説明 ・2012 年～2015 年の活動報告 ・選挙方法 ・立候補者の演説
17:50-18:30	ユースフォーラムの提言文に関する概要説明
19:00-22:00	ディナー、ソーシャルナイト

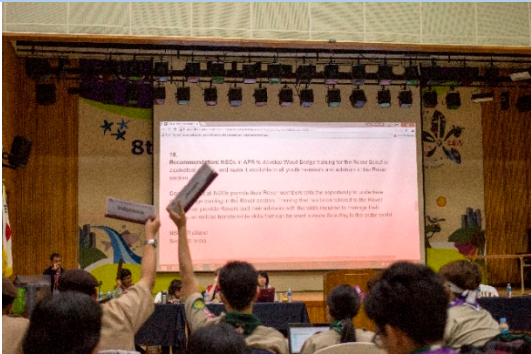
10月30日

07:00-08:00	朝食	
08:00-08:20	メディテーション・連絡事項	
08:20-08:35	より良い世界のフレームワークに関するインプット	
08:35-10:00	セッション1（インプット） テーマ “The Social Impact of Growth” グループワーク	
10:00-10:30	休憩	
10:30-11:15	グループワーク	
11:15-12:00	グループ発表	
12:00-14:00	昼食	
14:00-14:15	U-Report セッション	
14:15-16:30	セッション2（インプット） テーマ “Growth towards Youth Empowerment” グループワーク	
16:30-17:00	休憩	
17:00-18:00	グループ発表	
18:30-21:30	夕食・インターナショナル・ナイト	

10月31日

07:00-08:00	朝食	
08:00-08:20	メディテーション・連絡事項	
08:20-10:00	セッション3（インプット） テーマ”Inter-generational dialogue between young people and adult” グループワーク	
10:00-10:30	休憩	
10:30-11:15	グループワーク（続き）	
11:15-12:00	グループ発表	
12:00-13:30	昼食	
14:00-17:20	エデュケーショナル・ツアー	
18:00-20:00	班ごとに街中で夕食	
20:00-20:40	宿舎に到着	

11 月 1 日

07:00-08:00	朝食	
08:00-08:20	メディテーション・連絡事項	
08:20-09:20	ワークショップ	
09:20-10:00	グループ発表	
10:00-10:30	休憩	
10:30-12:30	ユースフォーラム提言文に関するディスカッション	
12:30-13:30	昼食	
13:00-15:30	YAMG 選挙	
15:30-16:00	ディスカッションの続き	
18:00-20:00	閉会式・夕食	

11 月 2 日

01:30-05:00	順天から空港移動	
09:30-12:30	韓国一日本	
12:30	成田空港着	

2.5 フォーラムのトピック

以下のトピック1－3に関しては、第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム(APR ユースフォーラム)より発行された、最終報告書を基に派遣員としての報告を記したものである。

トピック1～The Social Impact of Growth～

The social Impact of Growth は、フォーラムにおける最初のセッションのトピックだった。

講演者はシンシア・マルケス (Cynthia Marquez) さんだった。マルケスさんは世界スカウト機構(WOSM)のスタッフであり、メッセンジャー・オブ・ピースのネットワークマネージャーである。講演のテーマは、人々が何かしたとき、社会に与える影響に関するものだった。この内容は、スカウティングのイメージや、ソーシャル・メディアでの発信の仕方といった議論へと繋がっていった。



あるいは、若者の影響力と、各国連盟が若者の潜在能力に気付かせる方法についても話した。若者がよい影響と悪い影響の双方を持ち合わせているという話もあった。健全かつ誠実な人になるという目標は、スカウトが地域奉仕に参加する動機となり、これは良い影響のうちのひとつと言えるだろう。一方で、自身の言動が及ぼす影響力について十分に考えず、スカウトがソーシャル・メディアの中で不適切なふるまいをとることは、悪い影響のひとつの例だといえる。

社会の中で自分が影響力を持っているという意識改革を行う方法にはいくつかある。そのうちの一つは、個人の影響、各団の影響力に注目したワークショップのようなトレーニングである。また、ソーシャル・ネットワーク・サービスの中で、スカウト活動の紹介をすることは、社会に対して活動の必要性や課題を伝え、関心やトレンドを引き出す方法となる。

APRユースフォーラムは、APR地域の横のつながりを活用して、若者の社会的影響力をもっと広められるだろう。しかしながら、各国連盟のサポートがあってはじめて、地域レベルにまで影響力を拡大することができるのである。

このゴールに到達するまでに、各国連盟はもう一つ重要な役割を担っている。各国連盟は、スカウトが参画することのできるプロジェクトやアクティビティ(世界スカウトアワード、世界スカウト環境プログラム、メッセンジャー・オブ・ピース)を企画すべきである。さらに各国連盟は、スカウトのために社会との公約をすることによって、ユースの参加の推進を行い、メディアの広報、ネットワーク、そしてメディアトレーニングのためのプラットフォームを推進することができる。そして、スカウト以外の組織やスポンサーと連携をとることによって、より各国連盟はプログラムをより促進することができる。また、ソーシャル・メディアのページ、ウェブサイトは連盟が青年に社会における影響力を自覚させる方法として役立つ可能性ももっている。

トピック 2 ~Growth toward Youth Empowerment~

このトピックでは、“World Scout Youth Involvement Policy”をどのようにA P Rで実行していくか、若者をどのように青年参画の過程に参加させていくか、各国連盟では青年参画がなされているのか、知識と能力を共有する環境をどう創造していくかについて議論した。

このトピックは団、組織（各国連盟、APR、WOSM）、地域社会の、それぞれ3つのレベルで議論した。

団レベル

団レベルでは、メンバーに対して仲間を導いていくための活動をより多く提供していくべきである。ローバースカウトはローバースカウトのクルーの指針を主導し、計画していく機会をもっと与えられていくべきだ。

組織レベル（各国連盟・APR・WOSM）

各国連盟とW O S Mの段階では、様々な方法で若者の参加者を増加させることが提案された。各国連盟はそれぞれの国際若者組織を設立し、その組織を意思決定の力で強化していくべきで、そのようにスカウトがそれぞれの地域と国の組織に参画していけるようにするべきだ。

W O S Mは、前線のスカウト指導者が青年参画のコンセプトにのっとなって参画されていないから、もしW O S Mがウッドバッジトレーニングに青年参画のコンセプトを取り入れたら素晴らしいことである。

地域社会レベル

地域社会のレベルでは、ユースエンパワメントを高めていくための解決法は、青年参画のコンセプトを外部の組織にも広めるために外部の組織と連携をもつことである。政府は若者の意見が全体的に配慮されるように、若者のアドバイザーを政治的な顧問に取り入れていくべきだ。

青年参画の課題は小グループ内でも話し合われた。若者と大人の間にあるジェネレーションギャップは青年参画の主な障壁の一つである。実現可能な解決策は大人と若者との、世代間の対話を進めていくことだ。より詳しい内容はトピック3を参照してほしい。

現代の世代のスカウトは、自らの社会への影響に気づいていない。ましてやかかれらのスカウティングへの貢献や個人の生活（社会のメディア）を通じて。彼らは彼らの社会的影響力とどのように問題についてかわっていけるのかを認知する必要がある。ソーシャルメディアを通じては、若者はどのように彼らが彼らの提案、意見、立場によるいい方向への変化において潜在的な力に満ちている。 地元地域のスカウト活動でおこなわれる創造的な活動、どの世界中の場所においても、スカウティングのイメージを向上させるものである。

トピック 3~Intergenerational dialogue~

この議題の目的は、どうやって青少年と大人が協力し合い APR ビジョン 2020 を達成するのかという新計画を練る為に、より互いを理解が出来るようにするには如何すれば良いかを話し合うことである。

各国連盟は、例えば大人のリーダーや両親のようなスカウトと関わりのある大人の活動状況进行分析すべきである。結果としてこのディスカッションの問題は、青少年は環太平洋地域内で世間でのギャップが明確になっている直面しているという点に至った。これらは認識の欠如、大人と青少年間での信用問題、保守的な文化、そして宗教観が原因でスカウトプログラムに関する財政問題、時間制約、誤解が含まれている。よって、これは青少年と大人には双方このような問題に対する発言権があるべきだとはっきり一般的に認められている。そして、双方の立場も考慮すべきである。青少年にスカウティングを大人に説明させる、成功例を説明する。大人を様々なイベントに招待したり写真や動画でどのような活動をしているか見せたりする。各国連盟はこの費用を払うのに苦心する人の為に財源を用意する。連盟は地域レベルで青少年と大人が意見交換をする為の組織をつくる。



ロールプレイングの様子



ロールプレイングを映像で確認



2.6 提言文

1. Recommendations: Programme Sub-Committee to update the Guidelines and Rules of Procedure for the Chairman of the Asia Pacific Region Young Adult Members Group (YAMG), to declare that the Chairman is voted by the delegates at the youth forum.

プログラム小委員会に対して、アジア太平洋地域(APR)ヤングアダルトメンバーズグループ(YAMG)の議長に関するガイドラインと手続規則を改定すること。議長がユースフォーラムにおける各国代表の投票によって選任されることを言明するためである。

2. Recommendations: Programme Sub-Committee to update the Guidelines and Rules of Procedure for Asia Pacific Region Youth Forum, to allow the Associate member countries to participate as delegates, but this excludes the associate member countries the right to have a YAMG candidate.

プログラム小委員会に対して、APR ユースフォーラムのガイドラインと手続規則を改定すること。準加盟国が代表として参加する権利が得られるようにするためである。ただし、YAMG 候補者を立てる権利を除く。

3. Recommendations: Programme Sub-Committee to update the Guidelines and Rules of Procedure for Asia Pacific Region Youth Forum to increase the age of the YAMG requirements, so they can be elected if they are aged younger than their 26 birthday.

Context: Currently, delegates from full member NSO's, cannot become a candidate for the YAMG if they are aged 23 or above, because they cannot be above the age of 26 during their term. This will add value by:

- This will align with the World Youth Advisors age requirements (the world version of the YAMG).
- It allows for more experienced young members to apply.
- Improved facilitations skills for running the forum.

プログラム小委員会に対して、APR ユースフォーラムのガイドラインと手続規則を改定すること。26歳の誕生日を迎えていなければYAMGとして選出されるよう、年齢制限を緩和するためである。

背景：現在、加盟国の代表は、23歳以上であった場合、任期中に26歳を超えてしまうためYAMGとして立候補できない。そのため、この条項は以下の観点から有効性が保証される。

- ・世界ユースアドバイザーの年齢条件（YAMGの世界版）に倣う。
- ・より経験豊富なメンバーが立候補できる。
- ・より改良されたファシリテーション能力でフォーラムが進行される。

4. Recommendations: The Programme Sub Committee to update the Guidelines and Rules of Procedure for Asia Pacific Region Youth Forum, amended to:

- Replace the title of the Young Adult Members Group ‘Chairman’ with ‘Chair’.
- Replace any reference to the Young Adult Members Group ‘Chairman’ with ‘Chair’.
- Replace any reference to the Youth Forum ‘Chairman’ with ‘Chair’.
- Replace the title of ‘Chairman’ and ‘Vice Chairman’ of the steering committee with ‘Chair’ and ‘Vice Chair’.
- Any other references to this title of shall be amended in the light of this recommendation.

プログラム小委員会に対して、APR ユースフォーラムのガイドラインと手続規則を以下のように修正すること：

- YAMG 議長の名称を、「Chairman」から「Chair」に換える。
- YAMG 議長について言及する際、「Chairman」を「Chair」に換える。
- ユースフォーラム議長について言及する際、「Chairman」を「Chair」に換える。
- 実行委員会の議長、副議長の名称について、「Chairman」を「Chair」に、「Vice Chairman」を「Vice Chair」に換える。
- ほかのあらゆる表記もこの条項にならって改定する。

5. Recommendations: The Asia-Pacific Regional Youth Forum asks the elected YAMG and the Programme Sub-Committee to review and implement the updated election processes for the Asia-Pacific Regional Youth Forum, including:

- Making specifications in the Guidelines and Rules of Procedure for the Asia-Pacific Youth Forum Voting Methods, Teller Selection, etc.

Context: The guiding documents for the Youth Forum need to have developed procedures for the Youth Forum. These should be developed, as so it can be referred to as required, by delegates and observers.

APR ユースフォーラムは、選任された YAMG とプログラム小委員会に、APR ユースフォーラムにおける選挙の過程を評価し、改善を図ること。その項目は以下のとおりである：

- APR ユースフォーラムにおける投票方法、投票集計者の選任に関するガイドラインや手続規則の作成。

背景：ユースフォーラムの手引きには、ユースフォーラムを進行するために代表やオブザーバーが参照できるよう、より成熟した手続きが書かれる必要がある。

6. Recommendations: The Asia Pacific Regional Finance Sub-Committee review the funding for the YAMG.

Context: Funding from APR should be increased to allow the YAMG to meet together annually to continue to support the work of the YAMG.

APR の財務小委員会は YAMG の予算額を見直すこと。

背景：YAMG が毎年会合を開くことができるよう、また、YAMG のはたらきを支援することができるよう、APR からの金銭的支援を増やすべきである。

7. Recommendations: The Asia-Pacific Youth Forum requests the incoming YAMG to submit two progress reports as a group throughout their term. The first report at eighteen months, and another, a month before the next Youth Forum, in order to:

- ・ Inform the future Youth Forum participants about the outcomes of the work done by the YAMG so that critiques can be put forward before and during the Forum.
- ・ Prepare the interested parties of the YAMG election so the most suited candidate within the NSO may be put forward.

APR ユースフォーラムは次の YAMG に対して、任期内に 2 回の間隔報告を提出するよう求める。最初の一年半で 1 件目、2 件目を次のユースフォーラム開催 1 ヶ月前に提出する。

なぜなら：

- ・ YAMG の成果を今後のユースフォーラム参加者に報告することで、フォーラム前とフォーラム期間中に YAMG に対する意見が出されるためである。
- ・ YAMG の選挙に関心がある参加者に準備させることで、国の連盟内の最適の立候補者が送り出されることだろう。

8. Recommendations: Programme Sub-Committee to ensure at future Asia Pacific Region Youth Forums, that speakers on Discussion Topics that are productive and supportive to Youth Forum's agenda.

Context: Keynote speakers should provide direction for the participants to come up with the relevant recommendation for the discussion topics.

プログラム小委員会は、今後の APR ユースフォーラムで、基調演説者が、ユースフォーラムの計画の助けとなるような講演をするよう保証すること。

背景：基調演説者たちは、参加者たちが、議題に関連する提言文を考えつくように、講演すべきである。

9. Recommendations: NSOs to conduct National Youth Consultation, a minimum of once every three years, with the purpose of providing clear input to the APR Youth Forum recommendations.

Context: NSOs participants need to come to the Youth Forum with knowledge of their countries thoughts, not just base recommendations on the discussions at the APR youth forum.

各国連盟に対して、APR ユースフォーラムの提言文に関する詳しい情報を提供するために、最低でも3年に一度はユース協議会を実施すること。

各国連盟の参加者は、APR ユースフォーラムの議題に関する提言文の草案のみならず、自分の国の総意をもってユースフォーラムに参加すべきである。

10. Recommendations: It should be a requirement of all NSOs for the Rover Scout section (or equivalent), to be run and managed by members of the Rover Scout section, with advice and direction provided by Rover Scout Leaders, who are outside of the age group when necessary.

Context: In some NSOs, the Rover Scout section is not led by members of the section. Rovers is the conclusion of the Scouting journey, and as a youth member, it should be expected that Rovers are capable of self-management by having come through the Scouting programme.

すべての各国連盟に対して、ローバースカウト部門(もしくは同等の部門)が、その部門に属するメンバー自身によって運営されること。必要であれば、その年代よりも年上のリーダーから、アドバイスや方向性に関する相談を頼むことを認める。

背景：いくつかの連盟では、ローバースカウト部門が、部門のメンバーによって運営されていない。ローバーはこれまでのスカウティングの最終地点であり、かつ、ローバーはスカウトプログラムをやり通してきたことで、若きメンバーとして自治に携われるよう期待されている。

11. Recommendations: NSOs should support the development of the Rover Section, by providing training and other suitable means.

Context: New ways to support the sections growth should become a focus of the NSOs. NSOs should be encouraged to provide training workshops, seminars, marketing, dialogue training, etc, in order to help the growth of the Rover Section.

各国連盟は、訓練やその他適切な手段を提供することで、ローバー部門の発展を助けること。

背景：各国連盟は、部門の発展を助けるための新たな対策に、重点を置くべきである。ローバー部門の進歩を促すために、ワークショップ、セミナー、マーケティング、そして対話のためのワークショップなどが提供されるべきである。

12. Recommendations: The Asia-Pacific Regional Scout Committee, NSOs, and YAMG to support the implementation of these recommendations for future committee members:

- To increase the number of youth members on the Regional Scout Committee from 1 to 3 in the next triennium.
- 2 young person positions to be created, whereby the members must have not reached their 26th birthday at the start of their term.
- The process for electing the youth members should follow the same process as for electing the adult members.

Context: Currently, there is only one young person on the Asia-Pacific Regional Scout Committee who is the Chairman of the YAMG. This is a tokenistic approach and does not allow for meaningful representation of young people in this decision-making committee. Currently the level of youth representation on the Regional Scout Committee is less than 10%, by having two additional youth members will increase the youth representation to 23%. In the Draft Asia Pacific Regional Plan 2015 – 2018, one of the priority areas is ‘Young People’, included in this is the statement “Continue to involve young people in leadership roles in governance at various levels in Scouting and create opportunities to empower them in their own development”. Currently, the subcommittees make recommendations to the APR Regional Scout Committee, which makes binding decisions on the recommendations. So having additional youth representatives on the Regional Scout Committee will improve the youth engagement in the decision making.

APR スカウト委員会、各国連盟、そして YAMG は、これから委員会のメンバーとなる者のために、以下の条項を推進すること：

- ・次の 3 ヶ年以内に、地域スカウト委員会のユースメンバーのポストを 1 名から 3 名まで増員する。
- ・2 名のユースメンバーのポストを創設する。ただし、このメンバーは任期が始まる時点で 26 歳の誕生日を迎えていないものとする。
- ・ユースメンバーの選出方法はアダルトメンバーの選出方法に準ずる。

背景：現在、APR スカウト委員会には、YAMG 議長であるユースメンバー、一人しか在籍していない。これでは取り組みが形骸的で、意思決定機関である委員会において、青年代表が真の代表として、扱われていないと言わざるをえない。現在、地域スカウト委員会において、青年代表は 10%以下しかない。2 名のユースメンバーを追加することで、青年代表の割合は 23%にまで上がり、影響力が増すだろう。APR 3 ヶ年計画 2015-2018 の草案では、「青年」の項目は優先事項の一つである。声明を引用する。「青年がスカウティングの様々なレベルにおける運営の中で、リーダーシップの役目に参画し続けられるよう、そして青年たちが自ら成長して力をつけていけるような機会を設けなければならない」。現在、各小委員会は地域スカウト委員会に対してこの決定を履行する義務を負わせる提言文を作成している。そのため、地域スカウト委員会において、青年代表がさらに増えることで、意思決定に青年がもっと関与するよう進化するだろう。

13. Recommendations: The NSOs at the Asia-Pacific Regional Scout Conference should have at least one youth member as a Delegate, if they have more than one delegate.

Context: Young people need to be included in the decision-making process at all levels of the organization as outlined in the WOSM Youth Involvement Policy.

APR スカウト会議において各国連盟は、もし代表が一人以上いるのであれば、少なくとも 1 名以上の青年代表を派遣団に含めること。

背景：WOSM の" Youth Involvement Policy" が要点を説明したように、青年はその組織のあらゆるレベルでの意思決定の過程に関わらなければならない

14. Recommendation: The Draft Asia Pacific Region Plan should bring forward the regional workshop on Youth Involvement to the third quarter of 2016. This workshop will be run by an NSO that is actively able to share their achievements.

Context: We believe that the Youth Involvement Workshop is required earlier than 2018. It is stated in the regional plan for 2015- 2018 that the Youth Involvement Workshop is currently planned to be held in the 3rd quarter of 2018.

APR 三ヵ年計画の草案にある、青年参画のワークショップの開催は、2016 年秋に早めるべきである。このワークショップは、青年参画の達成を積極的に広められる連盟が運営するだろう。

背景：私達は、2018 年よりも早い時期の青年参画のワークショップを必要としている。しかし、2015-2018APR 計画のなかで、青年参画のワークショップは 2018 年の秋に計画されている。

15. Recommendation: The Asia Pacific Region Programme Sub-Committee is to perform a review of the implementation of the WOSM Youth Involvement policy with each NSO before the 1st Quarter 2017.

The review will include:

- APR Programme Sub-Committee to help NSO's translate the document into their own language, so that they will be able to understand the policy.
- NSO Action Plan to be developed over three years for each NSO, on how they will increase youth involvement in their organization.
- NSOs are required to report back to APR Conference 2018 on their progress.

Context: The Asia Pacific region youth forum participants do not believe that there is a suitable implementation of the youth involvement policy in each NSO. Support is required in each NSO to help guide them in the process.

APR 小委員会は、各国連盟とともに、2017 年の春よりも前に、世界スカウト機構(WOSM)の”Youth Involvement Policy”の推進状況を調査すること。

以下の評価項目が

- ・ APR プログラム委員会は、各国連盟が、”Youth Involvement Policy”を各国語に翻訳できるように支援する。そうすることで、各国連盟は WOSM の”Youth Involvement Policy”について理解を深められるだろう。
- ・ 各国連盟のアクションプランは、三年間かけて、連盟のなかで青年参画をどのように向上させていくかについて、発達させる。
- ・ 各国連盟は、進捗を 2018 年 APR スカウト会議において報告しなければならない。

背景：APR ユースフォーラム参加者は、各国連盟の青年参画の推進にまったく満足していない。青年参画を推し進めるためにも、各国連盟に対する適切な支援が必要である。

16. Recommendation: NSOs are encouraged to have young people on their national teams. Additionally, have youth observers present at meetings, to enable more young people to be involved in the decision-making process.

Context: There are still some NSOs that do not have enough young people involved in every level of decision making. This recommendation aims to involve young people in the decision made. This, therefore, empowering them to participate in the process.

National Team in this recommendation refers to all National committees.

各国連盟は、青年を意思決定機関に加えること。くわえて、青年のオブザーバーを会議に参加させることは、青年をより意思決定へ参画させる。

背景：いまだにいくつかの連盟では、青年がすべてのレベルの意思決定に十分に関わっているとは言い難い。本項は、青年を意思決定に参画させることを企図している。そうすることで、青年たちは、意思決定の過程に参画していく権限が与えられるようになるだろう。なお、本項における最高意思決定機関とは、連盟内のすべての委員会を指す。

17. Recommendations: At future Asia Pacific Region meetings, workshops, conferences and youth forums, there should be more awareness of different food requirements. It is suggested that the menu at APR events is to be suitable for those with (But not limited to); Halal, Vegetarian, Gluten Free etc.

今後の APR のミーティング、ワークショップ、会議、そしてユースフォーラムにおいて、異なる食文化に対する慎重な配慮をすること。APR の行事での食事は、ハラル、ベジタリアン、グルテンフリーなど(ただし、これらに限らず)、食文化に十分に配慮したメニューを新たに採用すべきである。

18. Recommendations: NSOs in APR are to develop the Wood Badge training for the Rover Scout section, and make it available to all youth members and advisors in the Rover section.

Context: Not all NSOs provide their Rover members with the opportunity to undertake Wood Badge training in the Rover section. Training that has been tailored to the Rover section can provide Rovers and their advisors with the skills required to manage their section, as well as transferrable skills that can be used outside Scouting in the wider world.

APR の各国連盟は、ローバースカウト部門のウッドバッジを発展させること。そしてローバースカウト部門のすべてのメンバーとアドバイザーが参加できるようにする必要がある。

背景：現在、必ずしもすべての連盟が、ローバースカウト部門のメンバーに、ローバー課程のウッドバッジを開設しているわけではない。

ローバースカウト部門に必要な研修とは、ローバースカウトとそのアドバイザーが、自身の部門を運営するのに必要なノウハウを提供し、様々な分野に汎用できるスカウティング技術を提供するものである。

2.7 YAMG について

ヤングアダルトメンバーズグループ（YAMG）とは、リージョナル・フォーラム参加者（代表）の中から選出される 6 名からなる青年代表達の事である。今回のフォーラムで以前は、18 歳～23 歳の者に立候補の資格が与えられている。しかし、今回の提言文で、選任時に 26 歳の誕生日を迎えていなければ、立候補できるよう改正された。選出の際には、前参加国のスカウトがジェンダーバランスと地理的なバランスが考慮される。APR では、青年参画をリージョナル・レベルで 2 つ実践している。1 つは、YAMG を、各小委員会に各一人配属させている。提言文でさらなる増員が可決されたので、今後は枠が 3 名に増える予定である。2 つめは、YAMG を、その任期の最期に、APR ユースフォーラムを運営させることである。

YAMG 候補者は初日に演説を行い、立候補者としての意気込みと熱意を参加者に伝える。そしてユースフォーラム中に行われるディスカッションでは、候補者がグループへ一人ずつ入ることとなっている。候補者はその中でファシリテーターとしての役割を果たし、ディスカッションがうまく進むように進行する。それによって参加者は、彼らがどのようにリーダーシップを発揮したかや、ディスカッションへの貢献度で、YAMG にふさわしい人物であるかを判断することができる。そしてフォーラム最終日に各国代表が YAMG の投票を行い、6 名の代表を選出する。今回日本派遣団は、派遣員がそれぞれの候補者に対して青年参画に関する見解や、YAMG に選出された後に何をするかなどを聞き、あるいはほかの参加者から収集した情報を基に、話し合いを行ったうえで投票するスカウトを決定した。



YAMG は正加盟国であれば候補者を立てることができ、6 名の枠に対して今回は 9 名の立候補があった。なお、YAMG の選出を行う際、投票は 2 回行われる。これは票が集中すると思われる 3 名の候補者を先に確定し、一度票をリセットしてから、残りの 3 名を選出するというものである。このような方法をとることで、数名に票が集中した場合でも、残りの候補者を公正に選出できる。例えば候補者 10 名のうちから 4 名代表を選出する選挙で、票が 10 票あったとする。このとき、支持率の高い 3 名が 3 票ずつ票を獲得し、10 票のうち 9 票がこの 3 名に集中したとする。そうすると残りの一票がたまたま入った 1 人が当選し、公正性を欠くことになってしまう。そこで、投票を 2 回にすると、先に票が集中するような誰もが認める人が先に当選し、2 回目の投票では次に良しとされる人物が公正に選出される。以上のように、APR ユースフォーラムは YAMG を選出するにあたって 2 回投票を行っている。

立候補者

- Khan Mohammad Arif (バングラデシュ)
- Tan Sonimeth (カンボジア)
- Wang Ling-Yu/Belinda (台湾)
- Cheng Mori Chi-Kin (香港)
- Jeffrey Archer Lyngdoh (インド)
- Jeong Eui-Jae/EJ (韓国)
- Nur Sharifah Nurul Atik Binti Baharuddin (マレーシア)
- Bilegjargal Saikhanbayar (モンゴル)
- Jayvy Gamboa (フィリピン)



選挙結果

写真の左側から紹介

1 回目の投票結果

- Jayvy Gamboa (フィリピン)
- Wang Ling-Yu/Belinda (台湾)
- Cheng Mori Chi-Kin (香港)

2 回目の投票結果

- Tan Sonimeth (カンボジア)
- Nur Sharifah Nurul Atik Binti Baharuddin (マレーシア)
- Jeong Eui-Jae/EJ (韓国)



当選した 6 人の中で最も投票数が多かった Cheng Mori Chi-Kin(香港)が 2015 年～2018 年の YAMG の委員長に選出され、地域委員会の構成員・世界委員会のユースアドバイザー、次回のアジア太平洋スカウトユースフォーラムの議長の任務を負うことになった。

2.8 KAICIID ワークショップ

第 8 回アジア太平洋地域(APR)ユースフォーラムの会場となった Suncheon Asia-Pacific Scout Center (SAPSC)では、APR ユースフォーラムが開催される前に、世界スカウト機構(WOSM)と協力している KAICIID(カイシード)という政府間組織主催のワークショップが行われていた。カイシードとは、政府間レベルで設立された組織である。この組織の使命は国際的に「対話」を広め、紛争を防ぎ、解決することである。

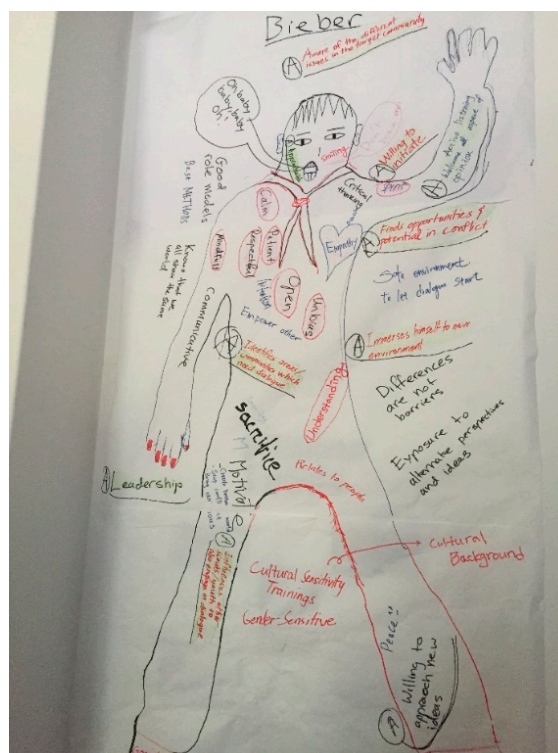


また、それに加えて、相互理解と協力関係を促進することも目指している。7年にわたる発展過程を経て、カイシードの目的は異なる信念や文化を持つ人々の橋渡しを「対話」という方法によって行い、緊張した関係をほぐし、相互の尊敬をもたらすことへと昇華した。

開催の案内が遅かったこともあって日本派遣団は参加することができなかったが、APR ユースフォーラム期間中にカイシードワークショップについての説明を受けることができたので、以下にその内容を紹介する。

カイシードワークショップでは Dialog「対話」というコミュニケーション方法を用いることにより、参加者が相互理解を深め、より円滑な人間関係の構築・組織運営ができるようになることを目的としている。世界中で文化・性別・信念・宗教・身分などの違いにより、様々な対立が生じているが、カイシードはこれらの価値観の違いによる対立を「対話」によって解消しようと試みている。

この「対話」で重要なポイントは、どちらが正しいのかを決めることなく、二人が互いの価値観を共有することにある。つまり、相手がどのような考え方を以て答えを出しているのかを知ることである。



Dialog「対話」を成立させるためには 7 つの原則が必要とされている。

参照：KICIID ホームページ(英文)

<http://www.kaiciid.org/>

対話を成功させる7つの原則

1. Create a safe space 安全な場所を設ける

対立している者同士が対話を行うためには、中立的かつ安全で、双方が話しやすい場所を設ける必要がある。仮に女性の団体と男性の団体が対話を持つとき、男性1人に対して女性30人だと自分の意見を伝えるのが難しいように、人数などに対しても配慮する必要がある。互いにとって心地よい場所を設けることができ初めて、対話を持つことが可能になる。

2. Agree that the purpose is learning 学ぶことに目的があることを確認する

対話の目的は相手の考えを知り、互いの視点を共有することである。場所や文化、その人の立場によって様々な正義が存在し得ることから、どちらが正しいかを討論し始めれば、いさかいへと繋がることは容易に考えられる。そのため、平和的相互理解を図るためには、話し合いの目的が相手を知ることであるということを互いが認識して臨む必要がある。

3. Use appropriate communication skills 適切なコミュニケーション方法を用いる

「対話」を行う際に大きい声でたたみかけたり、感情をあわらしにしたりすることで相手が委縮してしまえば、相手は思っていることを正直に伝えることができなくなってしまうだろう。互いが話しやすいよう、それぞれが相手を尊重して適切なコミュニケーションをとろうとすることは、「対話」を行う上で必要な努力である。

4. Focus on the relationship 関係性に注目する

対立している双方が、それぞれどのような“背景”を抱えていて、そのなかで互いがどのような関係を持っているのかを明確することは、相手と自身を客観的に理解する事への一歩となる。

5. Stay through the hard place 途中で投げ出さない

異なる考え方の人間が集まれば、意見の食い違いが生じ、感情的になることもある。また、問題が難しければ難しいほど取り組む意欲を保持するのが難しくなるだろう。しかし、途中で「対話」を放棄すれば元の木阿弥である。粘り強く相手の意見や考え方を聞き、自分の考え方や背景を伝えることで少しずつでも前進し続けなければならない。

6. Surface what is hidden 物事の裏側を明るみに出す

うわべだけの解決は何かを生み出すことはない。相手と同じ空間を共有することが気まずくても、本当に自分たちが思っていることを正直に伝えていかなければ、相手に理解してもらうことはできない。言わなくても伝わっているならば、そもそもすれ違いなど起こらないはずだろう。相手にとって気持ちのいい言葉が相互理解に繋がるとは考えてはいけない。

7. Be willing to changed 変わることをいとわない

相手の視点を知ることにより、自身の中で変わるべき点を発見したら、素直に変化を受け入れるべきである。かたくなに変化を拒むならば、相手を理解することは極めて難しくなるだろう。

3. 事前準備に関して

3.1 事前準備スケジュール

日程	派遣団	情報収集	海外との連携	RCJ	グッズ	日本連盟
6月	6/20 派遣員 連絡先交換					6/20 派遣員選考会
7月						
8月	8/22-23名古屋 第1回事前集会		8/22-23 台湾代表スカウトと会食・意見交換			
9月	9/21 大阪 第2回事前集会 9/22 東京 第3回事前集会	9/21世界スカウト フォーラム OBとの意見交換				
10月	10/24-25東京 第4回事前集会	10/20元YAMG 議長との意見交換		10/1 RCJ議長との意見交換 10/10-12 RCJフォーラム 2015	10/6 グッズデザイン 確定・発注 10/24 トレーナー、缶 バッジ、名刺配布	10/26-27 準備訓練
11月	10/28-11/2 APRユースフォーラム 11/3-11/9 APRスカウト会議	10/23-26 アンケート実施				
12月	11/21-22 第1回事後集会			11/25 RCJ議長との意見交換		
3月	3月 報告書提出					

3.2 事前準備の内容

派遣員選考会（日本連盟）

今回の参加者が初めて顔合わせをした場所である。全国に散らばっているメンバーが直接会って集まることは少ないため、選考会の後に自己紹介や応募した理由などの話し合いを行った。また、応募者全員で連絡先を交換し合い、今後のおおまかな動きについて共有した。

内定後

内定を全員が受けて、毎週の Skype 会議をスタートさせた。Skype 会議の中では、役割分担を行うとともに、8月の第1回事前集会を企画し、メンバー全員で直接議論を行うこととした。

第1回事前集会（名古屋）

過去の海外派遣やフォーラムの資料を読み込んだのち、派遣団としての目的・目標を定めた。また、YAMG の候補者として名乗りを上げていた王伶聿(台湾)が日本へ旅行に来ていたため、彼女と一緒に会食・意見交換を行った。

第2回事前集会(大阪)

第13回世界スカウトユースフォーラム参加者の柳生陽平氏よりお話をうかがった。

第2回事前集会(東京)

これまでの各係のタスク状況を評価・反省し、内容を見直した。また、報告書の枠組みを作成した。

RCJ フォーラム 2015

メンバーのうち2名(武田、平芝)が参加者、2名(泊、堺)が実行委員として参加した。様々なローバーの活動について学び、ローバー年代のスカウトたちがどのような問題を抱えて、それに取り組んでいるのかを知ることができた。また、閉会式後、参加者全員に APR ユースフォーラムのメンバーと派遣概要についての紹介を行った。

第3回事前集会(東京)

第5回 APR ユースフォーラム参加者で、YAMG の議長を務めた平塚学氏のお話をうかがった。

第4回事前集会(東京)

Topic 2 の Growth towards Youth Empowerment 「青年の参画への道のり」において重要な資料となる World Scout Youth Involvement Policy(WSYIP)の和訳を行った。

準備訓練(日本連盟)

日本連盟において、世界のスカウト運動の流れ、第6回 APR ユースフォーラム参加者であり、YAMG を務めた韓国のジェシーさんよりお話をうかがった。これまで話した各 Topic の議事録を基に、再度内容について話し合い、日本派遣団としての意見をまとめるとともに、提言文の案を作成した。最後に準備訓練の報告を国際委員会の鈴木令子委員長に行い、派遣員として全員が任命を受けた。

3.3 グッズ制作について

グッズ担当 平芝 亜喜

日本派遣団の交換品として、缶バッジを制作。また、日本派遣団オリジナルパーカーと名刺をデザイン・制作した。結論から言うと、グッズ係をしてよかった。

グッズを通じて、海外スカウトとの交流ができたからだ。デザインを学んでいるスカウトと意気投合し、日本文化を伝えるきっかけになった。派遣団マークには3つのこだわりがある。形、色、モチーフの3つだ。

形へのこだわり

正円・角のないデザインを取り入れた。理由は、今回のフォーラムテーマの調和を表すためだ。正円は、平和・円満を意味する。文字のフォントにもこだわりがある。フォントは“Broadway BT”を使用した。しかし、角の部分がなかったので、イラストレーターというソフトで、フォントの角の部分をなくし丸みを帯びたデザインに編集した。

色へのこだわり

色はえんじ色と白色を使用した。日本の国旗をイメージしたためである。グッズすべてに同じ色を使用することで、統一感が出たと思っている。

モチーフのこだわり

一番こだわった部分である。使用したモチーフには一つ一つ意味を込めた。

七宝：絶えることのない永遠の連鎖と拡大を意味し、円満・調和の吉祥文である。輪が四方八方に広がっていくことから「しっぽう」となり人と人のご縁は7つの宝と同等の価値があるとされたことから七宝の名がついた。

桜：日本を代表する花。春を連想させ、芽吹くことから始まりを表す。アジア太平洋地域と日本内で青年参画が発展していく始まりを感じられるように取り入れた。

富士山：富士＝不二から、尊いものの象徴。また、日本を代表する山である。末広がりなデザインにし、青年参画が発展していくことに祈りを込めた。

グッズ別のこだわり

トレーナー

マークは左胸上にした。心臓の上（正確には違うが）に配置することで、日本代表の意識を保ちたかったからだ。

他の派遣団メンバーの意見を取り入れ、フードとポケットがついたパーカーを採用。それが大正解だった。寒い韓国でも防寒具として役立った。サイズを女性はM、男性はXLで発注した。すこし大きめサイズにしたので、制服の上からも着用でき便利だった。

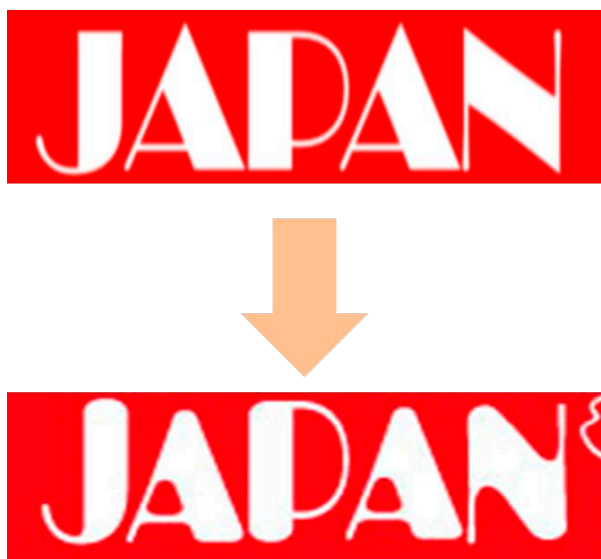
缶バッチ

サイズは直径 38 mmで個数は 100 個発注した。

下地の色がえんじ色で白抜きデザインにしたため、文字やモチーフの線が細い部分が見えづらくなってしまった。なので、桜の絵を差し替える、フォントの線を太くするなどの調整を行なった。また、印刷・製造過程でずれが生じることを予想し、七宝のリングを取り除き桜の花びらを散らすデザインに変更した。

名刺

名刺で意識したのは、日本派遣団と APR ユースフォーラムの2つのロゴを入れること、顔がすぐわかる写真を入れること、の2点だ。派遣団員それぞれ個性がでる仕上がりになったと思う。



会計報告

1. トレーナー

発注先：オリジナルプリント特急便

	数量	単価 (円)	小計 (円)
フーデッドライトパーカー 色:バーガンディ サイズ:M(3 枚) XL(2 枚)	5	1,648	8,240
シルク印刷(左胸 1 色)	1 式	3,000	3,000
版代	1	4,000	4,000
商品合計			15,240
送料			800
消費税合計			1,283
総合合計額			17,323

2. 缶バッジ

発注先:secondpress.us(株)ノート

	数量	単価 (円)	小計 (円)
38mm 缶バッジ	100	56	5,600
商品合計			5,600
割引クーポン	1	-500	-500
送料	1	480	480
消費税合計			446
総合合計額			6,026

製作工程

日付	トレーナー	缶バッジ
5-7 月	発注先の検索・見積比較・発注先決定	
	オリジナルプリント特急便に決定	secondpress.us(株)ノートに決定
7 月	コンセプト・こだわる点を明確化	
5-8 月	イラストレーターでデザイン案を作製	
	メンバーとデザイン案を確認しながら改善・調整	
10 月 1 日	業者にデータ送付（本命 2 社 + イラストレーターデータ受付可能業者 3 社） 金額比較 印刷結果みながら微調整（文字・太さ・配置等）	
	ロゴマークの配置と配色決定	缶バッジの大きさ決定（直径 38mm） 缶バッジ用のフォーマットをダウンロードしレイアウトし直し
10 月 3 日	入金・注文確定（2 社とも口座支払い）	
10 月 4 日	発注枚数が 5 枚ではなく 7 枚になっていたため、業者に連絡・訂正	
10 月 5 日		データ入稿
10 月 8 日		データ再入稿・決定
10 月 10 日	トレーナー着	
10 月 20 日		缶バッジ着

3.4 事前アンケート集計結果

このアンケートは当派遣を含めた海外派遣の認識、およびフォーラムのトピックに挙げられた成人指導者とのすれ違い等の事例収集を目的に全国のローバースカウトを対象に10月23日から26日までネット上で実施した。回答者数は56名で所属県連盟ごとの回答者数内訳は表1に表す。

国際活動への関心度

国際活動への関心度を最大5、最小1とする5段階評価で聞いてみた所、回答者75%以上は興味があると回答した。しかし、関心度に比べ『世界スカウトユースフォーラム』『アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム』の内容を知っているスカウトは40%以下である。なお、CJKプロジェクト・バングラデシュ派遣は新しく始まった派遣活動であるためか、活動内容を知っている回答者は半数以上いた。

所属県連盟	N=56
千葉県	15
大阪府	8
東京都	7
埼玉県	3
宮城県	3
兵庫県	3
岩手県	2
京都府	2
愛知県	2
岐阜県	2
神奈川県	2
三重県	1
徳島県	1
北海道	1
和歌山県	1
栃木県	1
広島県	1
熊本県	1

表1：回答者内訳

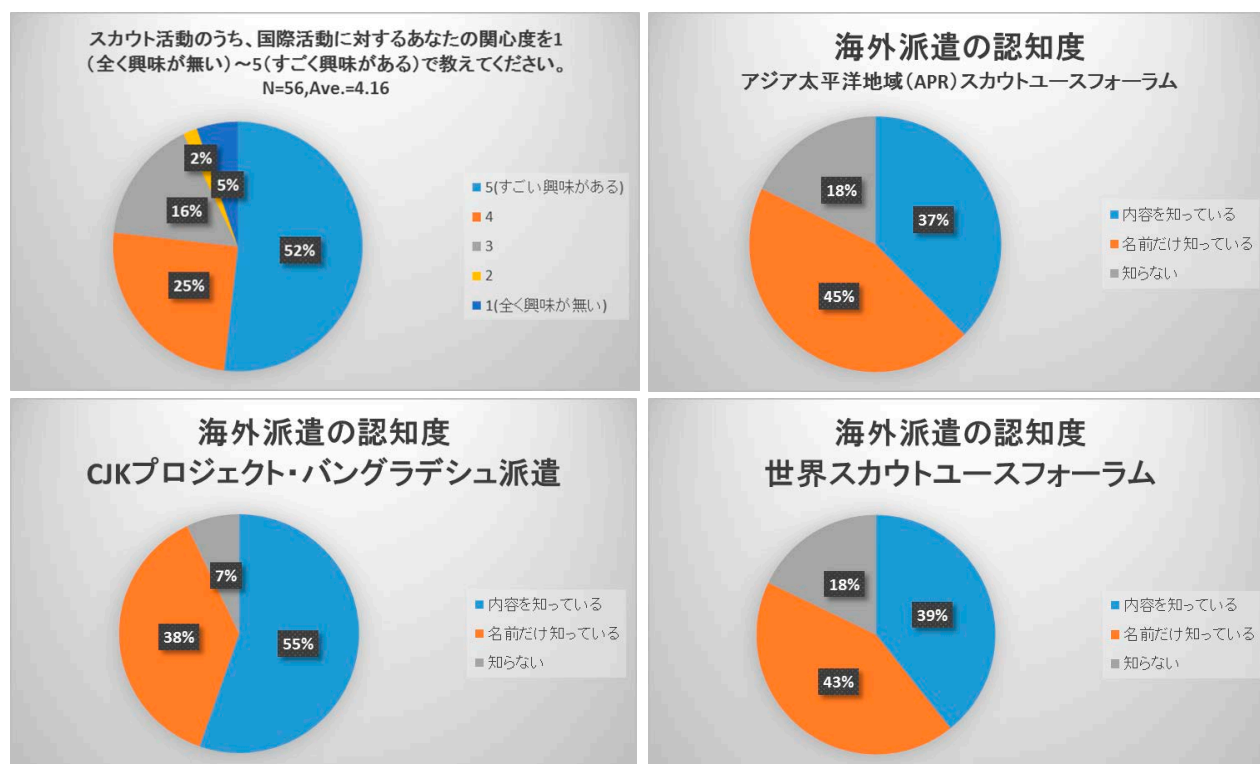


図2：国際活動への関心度と海外派遣の認知度

成人指導者とのすれ違い

スカウト活動をする際、成人指導者と手続き・活動内容等ですれ違いや成人指導者が障壁になる場合があるか調べた。これに対し、41%の回答者が『ある』と答えた。（表 3）

具体例も併せて聞いてみた所、主に①書類上の手続きが非常に煩雑②成人指導者（または役員）の許可が必要の二点が挙げられた。いずれも、ベンチャースカウト隊所属当時から感じているという意見が多かった。また、団外活動が認められない、リーダー不足で意思疎通が難しい、活動に関する情報がなかなか回ってこない、口出しをされる、といった様に自身のスカウティングに自由を感じられない回答者の意見もあった。

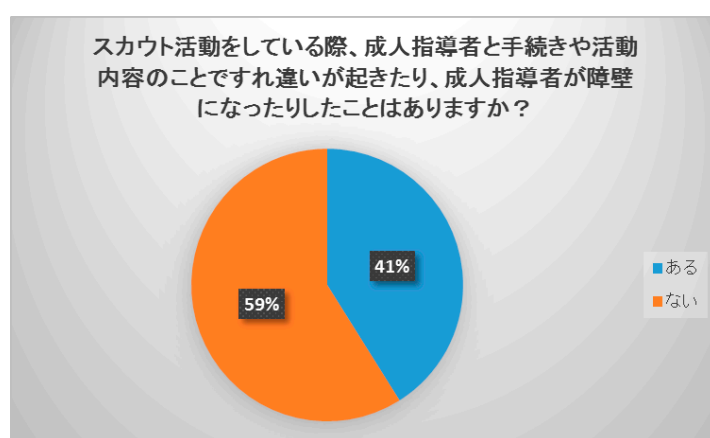


表 3：成人指導者とのすれ違いについて

●代表団に対する期待

これに対しては特に様々な意見が寄せられた。アンケート調査時、今の代表団は日本全体の意見を形に出来ていないという指摘が見られた。APR フォーラム自体を知らないため代表にどのような期待を寄せて良いか分からないという言葉もあった。

また、フォーラムも大事だが報告を充実すると良いという意見が寄せられた。各国のローバースカウト年代における年下スカウトに対する教育に関する現状や方針、APR に関する情報の入手し易さ、国際交流がしやすい環境づくりを求める声もあった。

4. 感想

青柳 里奈

千葉県連盟千葉地区千葉第8団

A P R ユースフォーラム代表・記録・会計

私は記録係と会計係の二つを担当した。一つ目の記録係は武田と共に事前・事後の S k y p e 会議の議事録を管理、事前・事後集会の計画、活動中の写真撮影を担当した。議事録や計画書はメンバー全員がいつでも自由に確認出来るよう G o o g l e ドライブに保存している。二つ目の会計係では、日本連盟から預かった予算を管理し、活動に使用したお金の精算などを行った。日本連盟から預かった支給金は基本的に使用せずに大切に持ち歩くだけだったが、精算は集会の度にあった。会計用のノートを一冊用意し、ページにレシートを購入順に並べて貼った。レシートには立て替えた人の名前を入れ、後から合計金額を計算して『誰に』『いくら』払えばいいの一目で分かるようにした。記録係は A P R ユースフォーラム中もやる事はあったが、会計係は事前・事後集会中心の仕事だ。短期だが、金銭管理は全員の信用に関わる事なので非常に重要である。自分だけではなく、他のメンバーと共に確認しながら行くと良いだろう。

私はこのフォーラムが開催された半年程前の2月に C J K プロジェクト・バングラデシュ派遣 (C J K - B) に初めて参加した。今まで団内メインで活動してきた自分にとって、C J K - B は今後のスカウティングへの新たな一歩になった。派遣中、活動を通して仲が良くなった韓国のスカウトに「A P R ユースフォーラムに参加しよう」と誘われた。当時はまだ A P R ユースフォーラムの事を知らなかった為、私はその時はやんわりと断りそのまま帰国した。だが、C J K - B を通してアジア太平洋地域のスカウトと交流する楽しさや国際レベルの活動に対する興味が徐々に膨らんできた。今回この A P R ユースフォーラムに参加を決めたきっかけは、先の C J K - B にあったのだ。

だが私は A P R ユースフォーラムの準備を始めた途端、自分が今まで知らなかった世界を覗いているような気持ちになった。全国ローバースカウト会議 (R C J) の体制、青年参画の重要性、青年参画の仕組みや定義等、初めて見聞きする内容ばかりであり、自分が何も知らなかった事を痛感するばかりであった。A P R ユースフォーラムに至るまでの情報吸収量が多く、整理する事がこんなにも大変だとは思ひもしなかった。しかし苦しいばかりでもない。得た情報から今自分達が置かれている状況を考えると、今まで頭の片隅にあった疑問や目をそらしていたような現実が次々に湧き上がってきた。そのような頭の中の『もや』が手に入れた資料や先輩方からの言葉によって晴れて行った。自分と同じような事を考えている人の存在や、解決のヒントを得る事が出来た。O B の方から直接お話を聞き、過去の海外派遣やフォーラム・スカウト会議から作られた報告書を読み込んで今までの軌跡を辿る事も重要な下準備になった。

A P R ユースフォーラム当日、私は代表席に座り話を聞いた。目の前で飛び交う英語の会話に思わず目が点になった。内容の濃さと回転の速さによる臨場感に、驚きを隠せない。しかし、私達は恐らく何処の国より準備を入念に行った為、話を慎重に聞いて理解をした。毎晩会議を開き、その

一日何があったか、どの様な意見が出たか等の情報共有を行う事も忘れなかった。私達の要は『情報共有』にあったと思う。

A P Rユースフォーラム最中に、私はふとこの五人のメンバーについて考える時があった。R C J運営委員会や県連盟のローバー会議で役割を担う泊、堺、武田の先輩方。ローバースカウト隊に上がったばかりの平芝。そして最近海外派遣に参加したばかりの自分。正直に言うと、ローバースカウトはおろか、『青年参画』に対する実感もあまりない後輩だけではこのA P Rユースフォーラムを終える事は出来なかった。先輩方の豊富な実践経験や情報から出る具体例があったからこそ、私はディスカッションのトピックやポリシーの内容を理解する事が出来た。そして後輩である平芝は、最年少ながらも意欲的に活動している姿は自分にとって良い刺激となった。非常にバランスが良く、協力的に活動出来た五人であったと心から思う。

また、メンバーだけではなく各県連・日本連盟のスタッフや指導者の方々、意見を出していただいたローバースカウトの方々、何よりメンバーのご家族にも感謝をしたい。皆さんの支えがあったからこそ私達は無事にフォーラムを終える事が出来た。

A P Rユースフォーラムは『海外派遣』ではない。海外派遣とは異なり、『日本代表』として参加するのだ。その為、生半可な準備や気持ちでは参加する事は出来ないと身をもって経験した。だが私は、このA P Rユースフォーラムには是非海外活動にあまり参加した事がない人にも挑戦してほしいと思っている。国際フォーラム参加者＝海外活動慣れしている人とは限らない。取り扱うテーマは国際規模だけではなく、自分が所属している連盟や地域活動に関する事もあるのだ。だから、「自分には海外活動なんて…」と迷っている人はどうか尻込みしないで欲しい。飛び出てみて初めて分かる事の方が沢山ある。そして私と同様に、一度でも海外派遣に参加した事があるスカウトも是非挑戦して欲しい。過去に出会った友人と再会する喜びは他では味わえない、良い思い出にもなる。そしてアジア太平洋地域内での繋がりをより強めていって欲しい。



泊 昌史

東京連盟山手地区目黒第3団

A P Rユースフォーラム代表・A P Rスカウト会議青年代表・レクリエーション

レクリエーションの仕事としては、インターナショナル・ナイトの出し物を、人気アニメ「妖怪ウォッチ」のテーマソング「ようかい体操第一」に決定し、その音源を用意した、これに尽きます。わたしは踊りが得意ではないので、練習時のリーダーシップは、以前踊ったことのある武田に負っています。インターナショナル・ナイトでは、香港、台湾、モンゴルらのスカウトたちとサブ・リージョンを結成して、スカウトたち全員で、「ようかい体操第一」を踊ることになったのですが、反響は絶大で、踊りを機に、街なかで妖怪ウォッチに気づき、アニメを見始めた人もいました。パーキンソン新・A P Rスカウト委員長も、私と会う度に、体操の決めポーズを真似してくださった。日本のA P Rにおける文化的プレゼンスは圧倒的です。たとえば、日本語は一第二次世界大戦時における植民地下をのぞけば一英語や普通話（プートンホワ）のような国際共通語でこそありませんが、しかし、私の印象では、半分近いスカウトたちが、日本語で声をかけてくれた憶えがあります。なかには、日本語を大学で学んでい（た）るスカウトもいました。インターナショナル・ナイトでは、全員が浴衣、甚平、法被といった和物をまといました。各国の民族衣装のなかでも、香港のチャイナ・ドレス、韓国のチョゴリ、モンゴルのデールはやはり華やかで、イスラム圏のバジュクロンにヒジャブをまとった姿もたいへんきらびやかだと感じました。ですが、浴衣などはむしろ、華やかさやきらびやかさではなく、簡素ながらも、洗練されたデザインです。より成熟した文化だと自負しています。また、やはりアニメやマンガは人気で、よく好きだと声をかけられました。レクリエーションの業務というわけではありませんが、フォーラム中、スカウトたちに抹茶をふるまいました。お茶を砂糖抜きでは飲まない文化圏の人びとにとっては、抹茶の苦味は受入れられないのではないかと心配していましたが、杞憂だったようなのでうれしかったです。このような文化的なプレゼンスをうまく利用すれば、斬新で、効果的なプロジェクトが打ちたてられるかもしれません。語学を学ぶ動機が、欧米諸語のように仕事や学業の必要性や、植民地の影響下から抜け出せない要因からではなく、また、普通話のように自分の家族の伝統からでもなく、文化に惹かれて学習することは、たいへん和やかで、好ましいように感じられます。平和的な国際関係を希求するとすれば、まずは文化的な影響力を活用して、求心力を高め、そしてカッコいい、あるいはかわいいリーダーシップをとっていくことで、日本のスカウティングの発展の活路が見出だせるかもしれません。

第8回A P Rスカウトユースフォーラムに代表として出席した過程で、青年参画の知見を学んだことで、リーダーシップの定義をもっと広く豊かに捉え直すことができました。すなわち、リーダーシップとは、人びとの自発性を特定の目標に導く力だと捉え直すようになりました。漢の高祖や豊臣秀吉のような将軍たちは、部下たちの発奮を引き出す才に恵まれていたからこそ、天下統一を成し遂げました。しかし、兩人いずれも権勢並びない地位にまでのぼりつめてからは、相次いで部下の離反に遭い、結果動乱を招きました。このような歴史的教訓から、さらに、チームビルディングの重要性が引き出せるとおもいます。人望は努力でどうにかなるものではありませんが、少なくとも大局観と、チームビルディングは、人事を尽くす余地があります。わたしがA P R S Y Fに参画する過程でとくに気をつけたのは、この2点です。スカウティングの基本原則と”Youth

Involvement Policy”をたびたび参照し、つねに主張に理由と根拠を求め、争点を明確化し、メリットとデメリットを比較考量する習慣を率先しました。そうすることで、わたしたちは年功の序列にかかわりなく、話し合うことができました。結果、ミッション（ドラッカー『非営利組織の経営』）を自分たちで定義し、長期的なプランを立て、それらにもとづいて、個々の目印（Merkmal）に集中することができました。タテ社会（中根千枝『タテ社会の人間関係』）が陥りがちな、もつ者がもたざる者を圧倒してしまうような関係性をやわらげ、それから、徐々に全員が納得するカタチで、議論を進めていく方法は、フォーラムの成功に不可欠です。

それにもかかわらず、ユースフォーラムでの話し合いは難儀でした。わたしは、多少なりとも英語力には自信があったのですが、正直なところ、議論についていくのがやっとでした。考えられる原因は、A P R内では、英語が母国語、もしくは公用語として通用している地域が非常に多いこと、そして、日本語がインド・ヨーロッパ語族に属さず、かつ、母国語で高度な情報を蓄積する習慣が根付いているわが国では、英語が公用語として機能していないからでしょう。オーストラリアとニュージーランド、そしてパプア・ニューギニアをはじめ、パキスタン、インド、バングラデシュ、香港、ミャンマー、マレーシア、シンガポールは、かつて大英帝国の傘下に属していました。フィリピンはアメリカの植民地でした。くわえて、第二次大戦以後、世界的に広い意味での英語帝国主義下にいる現状、高度な情報は、英語でやりとりされるため、どこの国でもエリートほど英語が達者な背景があります。実際、各国のスкауティング情勢は、国力と英語力の相関関係で捉えられる傾向があります。また、華僑・華人のネットワークも、見逃せません。シンガポール、台湾、香港の各連盟は、オーストラリアやニュージーランドのように社会的なプレゼンスをまだまだ確立できていないとはいえ、A P Rで働くリーダーたちを多く輩出しているため、バックアップが強固で、かつ、勢いがたいへん盛んです。マレーシアもそれを享受していますし、マカオの登録の動きも、このネットワークが強力な後ろ盾として働いていることが推察されます。

しかし、正直なところ、ユースフォーラムの話し合いには、満足できませんでした。”Youth Involvement Policy”をそもそも読んでいない参加者が散見され、公用語で話し合う難しさも相乗して、歩調を合わせることに終始してしまいました。それでも、同じ年代の、粒ぞろいの代表たちとわたしたちの明日を語り合う機会は、感動的でした。限定して紹介すれば、たとえば、Y A M G委員長だったオパールとは23WSJで協働して以来、ますます信頼し合えるようになりました。オーストラリアのアンドレからは、英語のネイティブ・スピーカー自身の配慮がたびたび感じられました。わたしたち「J」の左隣に座っていた「I」のインドネシアの代表、アリフは、いつも緊迫するムードをなごませてくれました。香港の代表、モリーとチョウの二人とは、自分の出身地ということもあって、なんだか兄弟のような関係を築けました。韓国からは、ベイのような知己を得ることができました。わたしたちは、日韓関係の難しい関係について、語り合う機会も得られました。韓国のなかからは、「日本人は嫌いだが、お前は友だちだ」と、雪解けのことばをかけてくれる者もありました（小倉紀蔵の『歴史認識を乗り越える』を事前に読み込んだのは正解でした）。

最後に、直接支援して頂いた、国際委員会と国際部の皆さま、特に派遣団の意見にアドバイスをくださった鈴木令子国際委員長と、様々なサポートをくださった事務局の皆さんに、深甚な謝意を申し上げたいとおもいます。みなさま、ほんとうにありがとうございました。

堺 亮裕

大阪連盟かわち地区富田林第2団

A P R ユースフォーラムオブザーバー・クルーリーダー・渉外

私の一番の感想は海外派遣ってこんなに楽しいものなのかといった衝動的なものである。しかし、帰国してから何が楽しかったのかを冷静に考えた。それは新しい仲間ができることである。私がここまでローバースカウトとして活動してきたのはこの衝動を求めていたからであろう。また、海外に仲間ができたことは今までで自分にとって最高の体験になったと思う。この派遣は募集人員が少ないため、参加することは難しいかもしれないが、他の派遣も含めて、後輩たちにはぜひ同じ体験をして欲しいという風に感じた。

クルーの中での役割は、渉外およびクルーリーダーだった。渉外は全国ローバースカウト会議（R C J）運営委員会やR C J フォーラム実行委員会などと連絡を行い、アンケートの実施や現状の報告を行った。課題としてはボーイスカウト日本連盟事務局国際部と連絡をもっと小まめにできれば、より良い準備ができたのではないと思う。そのためには事前の集会を渡航直前だけでなく、できる限り早く実施できれば、より意思疎通もできたのではないと思う。クルーリーダーとしては渡航後と韓国から帰国してからの到着した時の連絡のみでその他は何もしていない。これは、今回のチームでは全員がリーダーのような感覚であり、その時々によってまとめる人が替わっていたからである。今回のチームではこの形が良かったが、他のチームではこれが良いとは限らない。一番はチームのメンバー全員が仲良くなることだと思う。

今回の派遣を通じて日本のボーイスカウトに対して感じたことは多々ある。私が一番変えていきたいのはボーイスカウトがもっと社会に役に立つために、自己を確立する世代である大学生年代、ローバースカウトが交流するだけでなく、指導者の方々と意見を交換することができる場を設けることである。これはいわゆる青年参画であり、私がローバーに上進してこの3年で大阪連盟ユース会議や全国ローバースカウト会議で取り組んできた課題である。これからは青年参画の必要性を指導者の方々だけでなく、ローバースカウトに理解してもらえるように伝えていきたいと思う。

今回の第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム（A P R ユースフォーラム）派遣は私にとって初めての日本連盟が主催する海外派遣への参加となった。正直なところ、渡航前には言語などのコミュニケーションや自分のモチベーションなど様々な不安があった。渡航前日は本当に落ち着かなかった。事前準備では話が進まないことも多く、みんなが苛々することも少なからずあった。これらの状況を助けてくれたのは、クルーのみんなであり、無事A P R ユースフォーラムに参加することができた。本当にクルーのみんなには感謝してもしきれない。ただ、帰国してからはこの報告書の作成にほとんど協力できなかったことについては本当に申し訳ないと感じている。しかし迷惑をかけた分、A P R ユースフォーラムで得て、考えてきたものをこれから日本連盟で実現するために精一杯頑張りたいと思う。

最後に当派遣を支えていただいたボーイスカウト日本連盟事務局国際部、国際委員会、R C J 運営委員、大阪連盟、かわち地区、富田林第2団のみなさん、そして家族に感謝したい。弥栄

武田 英香里

千葉県連盟東葛地区柏第1団

A P R ユースフォーラムオブザーバー・記録・広報

今回、青柳と連携して記録・広報係を務めた。記録係としては、毎週行われていた S k y p e 会議の議事録の作成、および事前集会に使用する資料の作成を行った。各自のタスクを確認しながら着実に準備を進めてゆくために、議事録をきちんと取ったことは、基本でありながらも重要なことだったと思う。議事録の他にも、他の海外派遣の報告資料など、派遣員で共有すべき参考資料は多くあったため、Google ドライブを使用し、資料の共有を図った。その他、活動期間中の写真を記録することで、広報に使用する写真の充実を図ることができた。加えて、青柳とわたしがそれぞれで写真を撮ったため、重要なイベントの写真をとり損ねることなく記録することができた。このことから、記録係を複数置いたことは良かったと思う。

広報係としては、閲覧数の把握や宣伝が容易であるということで、facebook での広報を主として行った。ソーシャル・ネットワーキング・サービスは不特定多数のユーザーとの交流があるということで、ボーイスカウト日本連盟事務局国際部と利用に関する「きまり」について確認し、第1回事前集会から運用を開始した。事前集会から第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム（A P R ユースフォーラム）、第25回アジア太平洋地域スカウト会議（A P R スカウト会議）、事後集会にかけて、合計約40稿の投稿を行った結果、最大で7,310人へのリーチ、699人からの“いいね”を獲得することができたため、facebook を運用したことは効果的であったと考えられる。ボーイスカウト日本連盟や全国ローバースカウト会議の公式アカウントでシェアして頂いたことも、この結果に寄与していたと思う。

しかし、今回は広報で反省すべき点も浮上してきた。アクセス数が多かったのは、やはり A P R ユースフォーラム期間中の一番忙しいときであったが、目まぐるしくプログラムが展開され、W i - F i の環境もよくなかったため、A P R ユースフォーラムの歴史やフォーラムで話されていた内容の紹介を十分にすることができなかった。改善策としては、事前にフォーラムの開催経緯やディスカッションの内容について、文章や参考資料を用意しておき、一番ページの閲覧数が高くなっている時期を狙って投稿することなどが考えられる。広報の仕事は状況報告だけでなく、自分たちが取り組んでいる内容について、ひとつ落とし込んだ内容を紹介することだと感じた。今回の反省を、ぜひ次回に生かしたい。

わたしにとって第8回 A P R ユースフォーラムは、3年前バン格拉デシュで行われた第7回 A P R ユースフォーラムに引き続き、2回目の参加であった。前回参加したとき、わたしはベンチャー隊に残っていたため、日本のローバーリングのことはほとんど知らず、右も左もわからないまま参加し、その結果、知識やディスカッションにおいて、大きな課題が残った派遣となった。

そこで今回は前回の反省を活かして、日本連盟での面接が行われたころから、他の応募者へのアプローチを始めた。そして、内定が決まった他の派遣員と協力しながら事前集会を計画し、毎週の Skype 会議で進行状況を把握しながら、韓国に出発する前に綿密な準備を行うことができた。このような準備ができたことは、全員がフォーラムでディスカッションを交わせるだけの知識を身に着けることに繋がってくれたと思う。

他国と比べて日本派遣団は英語力が劣るため、事前の準備が極めて重要になる。「事前の準備がすべて。あとは準備してきたことを実行するだけだ」と教えてくれた先輩もいる。事前にA P Rプログラム小委員会やヤングアダルトメンバーズグループ（Y A M G）から配布されていた資料の読み込みはもちろんだが、今回は派遣員全員で情報収集、過去の国際フォーラム参加者へのコンタクトを試みた。その結果、国際フォーラムに参加したO Bの方からお話をうかがうことができたし、フォーラム以外の海外派遣の報告書を読んで、チームビルディングを行うにあたって重要なことなどを学ぶこともできた。そして何よりも、諸先輩方の努力の結晶である報告書からは、次の世代へ受け継ぎたいノウハウや、先輩方の想いなどが綿々とつづられており、知識の宝庫はきちんと保存され、受け継がれているのだと感動した。今回、このような知識を吸収することができれば、日本派遣団は他国のスカウトと同等、もしくはそれ以上の知識を以て、ディスカッションに参加することができることがわかり、フォーラム期間中、自分たちが取り組んだ準備に自信をもつことができた。

また、今回わたしは”ひと”に恵まれていたと思う。日本派遣団5人のメンバーはひとりひとりが自分にしかできない役割を十二分に発揮し、それによって、だれ一人欠けても出せないような結果を残すことができた。韓国へ出発する前にとったアンケートの中で、私たちは「面接によって選出されたスカウトであり、民主的に選ばれたメンバーではないため、特に期待はしていない」という意見も聞いたが、この5人全員が第8回A P Rユースフォーラム日本派遣団にとって必要不可欠であったことは、まぎれもない事実だ。堺の全国ローバースカウト会議とのつながり、泊の英語力とディスカッションの技術、青柳の台湾・韓国での人脈、平芝の将来性と美術センス、そしてわたしの前A P Rユースフォーラムの経験。これらすべてが融合し、化学反応を起こすことで、この派遣ができたのだと思う。わたしはこのメンバーで参加できたことを誇りに思う。そして、派遣員一人ひとりを支えてくれたご家族、原隊の指導者の方々、県の指導者の方々、そしてO Bの方々に心からの感謝をしたい。

現在ボーイスカウト日本連盟では、全国ローバースカウト会議が活発であり、各都道府県から選出されている代表スカウトが活躍している。今後は全国ローバースカウト会議や、自身の所属する県連盟にある千葉県ローバース会議と協力して、今回のフォーラムで学んだ”青年参画”や”対話”に関する知識を共有したい。そして、次回以降の国際フォーラム派遣員へのサポートを続けていきたい。私の中で、A P Rユースフォーラムへの挑戦はひと段落ついたところだが、国内でできることはまだ山のようにあり、これから自分にどんなことができるのだろうと、期待に胸の高鳴りを感じている。



平芝 亜喜

大阪連盟きたおおさか地区枚方第9団

A P Rユースフォーラムオブザーバー・グッズ

初めての国際フォーラムでした。そしてローバー隊に上進してはじめて参加する大きな活動でした。日本連盟での面接で、泣いたことは今でも忘れられません。泣いた理由は、自分の無知と力不足にくやしさを覚えたからです。自分は過去何回か海外派遣に参加させていただきました。それで自分は英語を話せると勘違いしていたみたいです。面接の場で自分が伝えたい言葉を英語で表現できない無様な姿を目の当たりにして、本腰いれて英語を勉強しようと思いました。

そしてもう一つの問題が、私がローバースカウトについて何にも知らなかった、ということです。その時の私は、全国ローバースカウト会議（R C J）も世界スカウト機構も青年参画の概念も何も知りませんでした。派遣団の先輩方は、ローバースカウトの中でも議長をしていたり、経験豊富であつたりと、経験の知識が段違いに多い方ばかりでした。それに比べて、まったくのゼロベースからのスタートでした。猛烈な不安がありました。

しかし、人と機会に恵まれました。

海外経験豊富で、ボーイスカウトは世界を変えると強い思いを持つ泊さん、R C Jの副議長を務め、日本の青年参画を推し進めている堺さん。千葉のローバース議長を務め、そして前回のアジア太平洋地域スカウトユースフォーラム(A P Rユースフォーラム)に参加した武田さん。C J Kプロジェクト・バングラデシュ派遣での人脈、経験を持ち、鋭い意見を持つ青柳さん。私を除くすごいメンバーと活動をともしていくうちに、青年参画とはなになのか。日本のボーイスカウトの課題はなにか。ボーイスカウトとはそもそもなにか、など新しい知識と考えを吸収することができました。

そしてR C Jフォーラムで日本のスカウトの考えを把握できたこと、新たな人脈ができたことは大きな喜びでした。全国で活躍するスカウトの話聞いて日本でのローバー活動の自由さ、幅広さに驚きました。今後のローバー活動に大きく影響を与える出来事でした。

派遣までの期間に事前集会を開けたことも私が知識を吸収できた素晴らしい機会でした。派遣前に資料の読み込み、議論と準備すべきことに集中して取り組めたのは良かったです。事前集会中でも、議論の進め方、スケジュールの組み方など先輩方から学んだことは大いにありました。

事前準備を進めていくうちに、だんだんと青年参画の意味、重要性がわかってきました。さらに、日本の青年参画の今を客観的に見ることもできました。

そんな事前訓練を経て、派遣に参加しました。ほんとうに参加して良かったです。

なにがよかったって、フォーラムに参加する中で自分が成長できている！と実感できたことです。

トピック1の議論のとき、なにも意見を言えませんでした。悔しい思いをしました。

2回目の議論の場では、積極的に質問するようにし、意見をきいてもらえるようになりました。

3回目には、グループのなかで初期の役割をして、ロールプレイングでは母親役を演じ、また前でグループの意見を発表しました。

淡々と並べただけでもこれだけの進歩がありました。

参加者の中には様々な宗教、文化、考え方など、日本ではあまり接しない価値観に出会うことがで

きました。アジア太平洋地域という多種多様な人種が住む地域ならではの青年参画の形を作っていくべきだと思いました。フォーラム中に、代表の席に座ったときの臨場感、責任感は忘れられません。

私はあの席に座って、世界のスカウトたちと意見を交わせるくらいに成長しなきゃいけないんだと思いました。

私の立場で考えたこと、学んだことをしっかりと記録にのこし、次回以降、支える側になれるよう、これから知識と経験を積んでいきたいと思います。



5. 総括

4.1 日本におけるスカウティングの現状

日本のスカウティングは現在、危機的状況にある。それは加盟員数の減少から見て取れる。図 1 は昭和 56 年（1981 年）から平成 26 年（2014 年）までの日本におけるボーイスカウト加盟員数の推移を表している。加盟員減少は、単なる存続問題ではなく、世界をよりよくする影響力を減衰させているからこそ、危機的状況にある。

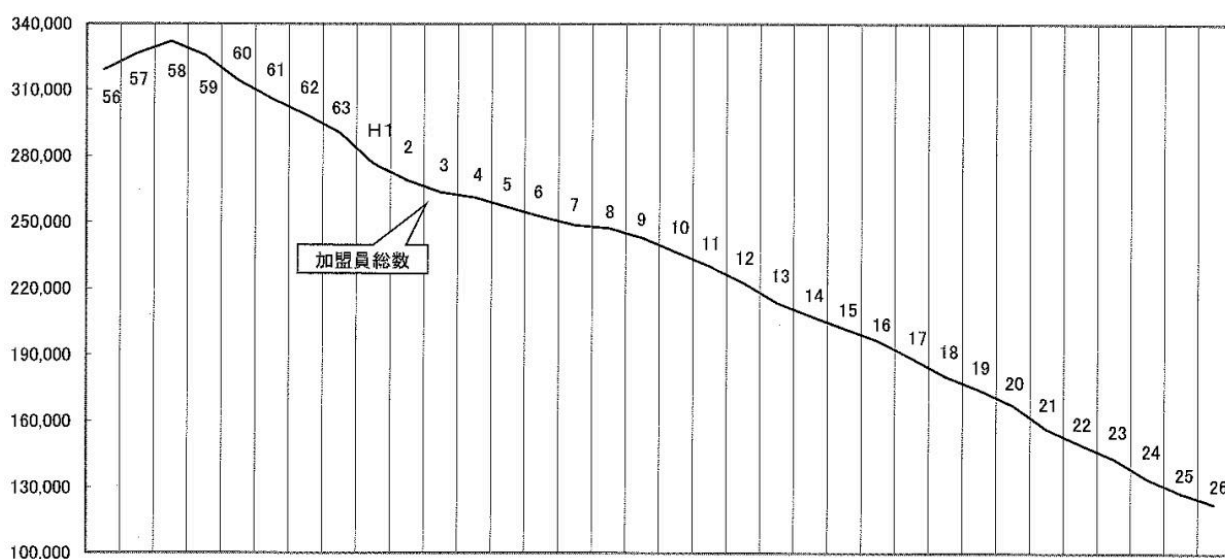


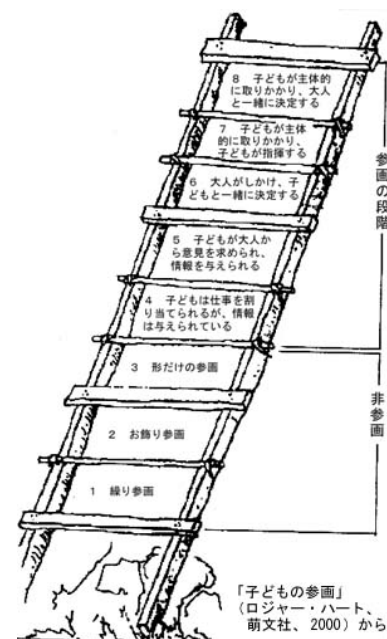
図 1：日本のボーイスカウト加盟員数の推移
(ボーイスカウト日本連盟 平成 26 年度事業報告書より引用)

この危機的状況をどうすれば改善できるのか。青年参画が一つの方法である。わたしたちの先輩方はユースフォーラムを通じ、現在の全国ローバースカウト会議（RCJ）を 2014 年に設立した。設立宣言を引用する。

「ローバースカウトは、教育規程に定められた私たちの目標に基づいて活動することで、社会の中で役割を担い、また、価値を提供していくことが求められている。そこで、情報交換の場の提供や、提言活動を通して、全国のローバースカウトの活動を活性化させ、ひいては、ボーイスカウト運動の発展に寄与することを目指して、「全国ローバースカウト会議」の設立をここに宣言します！！」

以上のように、RCJ はローバースカウト同士の情報交換の場の提供や、提言活動を目的とされて設立された。提言活動とは、青年の意見を集約し、組織の意思決定に関与することだ。これこそが青年参画である。しかし、日本では RCJ ができ、様々な都道府県で県連盟ローバース会議、あるいは地区ローバースが設立されているにもかかわらず青年参画の取り組みはあまり進んでいない。このような会議体を設立することは青年参画の観点からは大変重要であるが、その先がより重要だから

である。日本の青年参画は現在どのレベルなのか、青年参画の提唱者である、図2のロジャー・ハート（2000）のはしごモデルを用いて評価してみよう。全国ローバースカウト会議では議長が日本連盟の教育推進会議に参画している。しかし、会議の内容は、ほかの加盟員に周知されていない。事前に知らされることもなく、お互いの報告を行う一方通行のやり取りである。これは、はしごモデルの「3. 形だけの参画」にあたる。よって、青年参画は充分ではないと判断できる。



4.2 日本派遣団の取り組みとその成果

RCJ 構成員を対象としたアンケート

RCJ、すなわちボーイスカウト日本連盟に所属するローバースカウト全員を対象としたアンケートを行った。回答期間は4日間と短かったが、日本のローバースカウトが第8回 APR ユースフォーラム派遣団に期待していることや、日々直面している課題などについて知ることができた。集計結果は、韓国に出発する直前の準備集会にて、派遣員全員で共有した。

図2：青年参画のはしごモデル

WOSM の World Scout Youth Involvement Policy の読解（青年参画について）

今回 APR ユースフォーラムトピック2の重要参考資料として、第40回世界スカウト会議でも承認された、World Scout Youth Involvement Policy(WSYIP)が、事前資料として読了を推奨されていた。内容を確認したところ、青年参画に関する、極めて重要な内容が書かれていたため、他の人々とも共有できるよう、役割分担をして、和訳しながら読解を進めた。中には青年参画の達成度を評価するためのモデルなども紹介されており、日本のスカウティングにおける青年の参画度合いを客観的に図るための補助ともなった。また、トピック2に対する、日本派遣団としての意見をまとめる事が出来た。

ヤングアダルトメンバーズグループ(YAMG)へのはたらきかけ

APR 内で総意をとる必要性と、活動に入る前にサポート体制を整える重要性を近隣国の代表やYAMG 候補者に説明した。CJK プロジェクト バングラデシュ派遣(CJK-B)に参加していたスカウトの中には、サブリージョナル会議（日本・韓国・台湾・東アジア中心）案に前向きな姿勢を見せるスカウトもいた。

各トピックの話し合い(日本派遣団)

議題 1 : The Social Impact of Growth

日本派遣団としては、いま私たち(日本連盟)が活用している広報媒体を知り、それを海外のスカウトに紹介することで、議題についてのヒントとすることを確認した。

議題 2 : Growth toward Youth Empowerment

本議題の重要参考文献となる WSYIP についての和訳と内容の確認を行った。それを踏まえたうえで、日本における青年参画の現状とこれまでの経緯について、日本派遣団の中で情報を共有した。

APR ユースフォーラム内での議題 2 に関する議論の進め方として、フォーラムの中では各国の青年参画の現状と事例を比較検討し、青年参画を推し進めるためのフレームワークを設計した上で、採択文を作成する案をまとめた。

議題 3 : Inter-generation dialogues between young people and adult

本議題では、2020 年までに VISION 2020 に基づいて青年参画を推進するためにはどのようにして、青年と成人が対話を行うべきか、ということについて議論を行った。その予備知識として、まず VISION2020 の読み合わせを行い、という 2 つの側面からアイデアを出し、以下の採択文(案)を作成した。

- ①YAMG による青年参画をより発展的なものにすること。
- ②各国代表が国において青年参画を推し進めること。

4.3 今後に向けて

派遣報告会の映像配信

本派遣が行われる 1 年前に泊と武田はボーイスカウトの海外派遣の報告会を映像として配信する試みを試験的に行っていた。今回は日本連盟や全国ローバースカウト会議と協力しながら、このノウハウを活かして、より多くの人々に海外派遣の魅力、そして APR ユースフォーラムで得られた経験・知識を広めることに挑戦したい。

RCJ への青年参画の周知

RCJ 運営委員会より発行されるものとして、ローバースカウトの青年参画に関わる資料を作成できないか打診していきたい。本来、世界スカウトユースフォーラムの時点で、青年参画の推進は進められなければならなかった。これは、意思決定に参加するスカウトの数が限られており、担当者が欠けてしまうと、次年度の増員まで動きがとれず、引継ぎもままならない、システムの不調を示している。26 歳以上の、知見を有する指導者たちも交えて、より長期的な戦略を打ち立てる必要がある。

フォーラムの知識・経験の引継ぎ

国際フォーラムに参加する上で、過去のフォーラムの知識・経験は非常に重要である。たんに現場感覚を仄聞するにとどまらず、建設的な発展を継承するためにも、フォーラムの基礎知識にはじまり、今までの経緯と今後の動きといった引継ぎはたいへん効果的である。そこで、以降の国際フォーラムに参加するスカウトへ参加経験者として支援していきたい。



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

住所 〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3

電話 03-5805-2561（代表）

ファクシミリ 03-5805-2901（代表）

URL <http://www.scout.or.jp/>

2016 年 3 月発行